

20~30代が熱く議論

ネット通じ広がる読書会

インターネットの会員制サイトを通じて集まる読書会が20~30代を中心に広がっている。登録者が数千人に上る会も。平日朝や土日の自由な時間を使い、読んだ本についてカフェや会議室で語る目は真剣そのもの。何に引きつけられるのか。

登録数千人のグループも

■知りたい

「苦しみを受け止め、ユダヤ人迫害を描くアウシュビッツ収容所の生観までぶつけ合え考えた」。横で人が体験記「夜と霧」(ピエール・クトル・フランク著)を胸に会員制サイトの午後6時、東京・八重洲で始まった「東京ドルネームを記したアウトプット勉強会」。会議室は約100人の若者らでいっぱい。感想を語り合った。

クラブ

約2時間20分の会で

第二の場

席を立つ人はほとんどいない。議論は仕事の悩みや互いの死生観、人生観に及ぶことも。2度目の参加という東宮本敬史さん(30)は「みんなが考えていることを知りたくて」と話す。ほかの勉強会にも顔をを出している。

3組結婚

「若い人がこんなに集まるとは予想しなかった」と会を設立した山本多津也さん(45)は、名古屋市。3年前、本好きの友達4人と読書会を始め、連絡手段にミクシイを使うと、参加者が爆発的に増えた。山本さんが主催する東京、名古屋、京都などの会は登録者数がある」と話している。



課題本を読んで議論する読書会「東京アウトプット勉強会」の参加者(2月、東京・八重洲)

生活保護求め

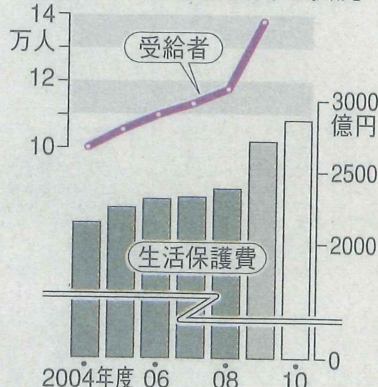
大阪市に流入?

生活保護受給者が急増し、全国の市町村で最多の約11万世帯、約13万8千人と、市民の約20人に1人に達した大阪市。最大の原因はリーマン・ショック後の景気低迷だが、

1割に

ち、1割に近い274人が半年以内で大阪市へ移った人で、元の自治体で「担当者から大阪府に申請するよう勧められた」「大阪までの片道運賃を渡された」との証言はあつたが、真相はやぶの中だ。

大阪市の生活保護費の状況



受給者は年度1年間の月平均、09年度は2010年1月時点。生活保護費の09年度は見込み額、10年度は予算額

生活保護費の4分の1は自治体の負担。大阪市の保護費は来年度予算で2863億円と歳出の2割近くを占める。負担増を抑えたいのは自治体も同じ。大阪府は生活



「シンドラーのリスト」売却へ

NY 801人分で2億

【ニューヨーク共同】第二次世界大戦中に多くのユダヤ人をナチスの迫害から救ったドイツ人実業家、故オスカール・シンドラー氏の作成したユダヤ人労働者名簿「シンドラーのリスト」が22日、ニューヨークで20万(約2億円)で売りに出されることになった。歴史文書を専門とする米古物商であった約1200人ゲリー・シメット氏が明らかにし、その活躍はスティーブ・ジメット氏によると、シメット氏によると、シンドラー氏が残した名簿は5部しか現存が確認されており、今回売却されるのは7部あったが、2部は個人の所蔵品。1945年4月18日付で13にわたり801人の男性の氏の博物館や史料館に